

緑の風 FAX版



NO. 2 2021年6月22日 JR東労組

JR 東労組ホームページ

第40回定期大会 大会宣言

大会宣言

JR 東労組は6月21日、川口市フレンディアを本会場として「第40回定期大会」を開催した。コロナ禍に踏まえてリモート会議を併用しつつ、労働者として実践的で献身的な発言で大会をつくり出すことができた。そして、スローガンをはじめとする運動方針などを満場一致で確認すると共に、再建し新たな一步を踏み出した水戸地本と共に歩むことを確認した。

21春闘では、「昇給係数2」での定期昇給という、JRグループで唯一の定昇カットという敗北を喫した。その総括のもと、2021年度夏季手当交渉では、「仕方がない」「あきらめ感」を打ち破り、組合員の生活実感を訴え満額獲得を目指してたたかきに臨んだが、「2.0ヶ月」という過去最低の回答が示された。黒字予測にも関わらず昨年を下回る回答と、組合員の生活実感を受け止めない会社の姿勢に多くの怒りが寄せられた。これは、21春闘から賃金や労働力について議論を重ねてきたからこそその声である。そして、掲示板を活用したたたかきも職場からつくり出した。継続したたたかきと、職場からの声をもとにJR東労組初の「緊急再申し入れ」を行い、組合員の声を強く訴え会社に迫った。結果として会社回答は覆らなかったが、職場と交渉団が一体となってたたかき抜き、「社内世論」にくさびを打つことができた。そして、JRバス関東本部、JRバス東北本部、ステーションサービス協議会においても全く納得できない回答であったが、ギリギリまで組合員と議論を深め、妥結の判断をしてきた。このたたかきを通じて、組織全体でたたかき抜く一体感をつくり出してきた成果を確認し、この怒り・悔しさをバネに、組織強化・拡大で次なるたたかきに挑もう。

新体制を確立した第39回定期大会以降、「新生JR東労組運動宣言」のもと組織再建に向けて1年間組合員と共に運動をつくり出し、140名を超える組織拡大を実現してきた。その根拠は、職場で仲間と向き合い、真剣に議論を積み重ねて信頼を得てきたからに他ならない。

そして、私たちは赤字・コロナ禍を乗り越え、職場と仕事と生活を守るために施策に向き合ってきた。「現業機関における柔軟な働き方の実現」や「グループ会社における副業について」など、社会情勢に踏まえた働き方改革の促進が「JR東日本の構造改革」として着実に、かつ急速に行われようとしている。だからこそ私たちは社会情勢を分析しつつ、メンタルヘルスを含めて「安全・健康・ゆとり・働きがい」が担保できる職場を描くため、8・9各機関代表者会議に向け、職場の将来像について議論を加速させていこう。

しかし、職場においては、施策説明もままならない状況での実施、プレス発表やタブレット配信が先行すること、施策を担う組合員への配慮に欠けた人事運用がなされていることに不信感を訴える声が出されている。モチベーションを低下させるような経営姿勢、不当労働行為やハラスメント行為、さらには他労組からの攻撃など止むことはない。不当労働行為に関しては、団体交渉で事実を訴えたたたかきを積み上げていこう。他労組からの組織破壊攻撃に対しては、断固許さずたたかいていこう。そして、組織強化・拡大をさらに推し進め、組織・組合員を守り、いかなる攻撃をも跳ね返していこう。

JR東労組運動の基軸となるものは「抵抗とヒューマニズム」の精神であり、職場活動であることに変わりはない。1万人組織を目指して、さらに前進していくための組織運営のあり方、体制を構築していくことが今問われている。

JR東労組は、いかなるたたかきも仲間と共につくり出していく。JR東労組に結集して共にたたかうことを訴えよう！組合員一人ひとりが組織強化・拡大を実践し、全組合員で未来を切り拓こう！

以上、宣言する。

2021年6月21日
東日本旅客鉄道労働組合
第40回定期大会